

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0015
東京都東大和市中央1-539-15
http://www.yumuyu.com/
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2022年(令和4年)10月16日 日曜日

無料

第125号

毎月発行

発行 2022年(令和4年)10月16日 日曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、69歳の新人
歴史映像作家兼プロデュー
サー。3作目の「古代製鉄の
埋もれた歴史を発掘した映
像」の【奪われた古代鉄王
国】の崎上映会は延期。乗
りて越奮文を日
のい新4作目。研究。こ
え中。掘す。こ
文。掘す。こ
本。掘す。こ

シリーズ【東北再興のための新産業創出】 第7回

半導体世界TOPのTSMCの熊本進出がうらやましい 「国内誘致競争」は東北以外の各地方との競争だが東北 は勝てるだろうか？有効な積極策はあるのか？

東北は他地方との誘
致競争に勝てるか？

このシリーズも七回目だ
が、この一年あまりで、筆
者の知る限り、東北にとつ
ての新産業創出、大規模な
雇用創出に関する良いニュ
ースはほとんど耳にしない。
海外からの国内回帰組の
誘致も、海外企業の日本進
出案件でも、みな他地方に
奪われている気がする。
ほんとに何とかならない
ものなのかと思う。

東北からすればうらやま
しいような話。他地方には
出現していて、なぜそのひ
とつでも東北に回って来な
いのだろうかと思うことも
たびたびである。何かが足
りないのであるだろうか？

もう災害頻発の東北
ではないアピール必
要？

海外からの国内回帰組の
誘致でも、海外企業の日本
進出案件でも東北が勝てな
い理由を探し始めて、まず
思いつくのが、東北は災害

TSMC熊本工場着工でクレーン林立
：熊本新聞



が頻発する地域というネガ
ティブなイメージへの懸念
である。
そのイメージが、いざ工
場進出を検討し始めたとき

に災いしているのではない
かとも考えてしまうのだ。
いざ東北への進出を真剣に
検討し始めるとき、東日本
大震災をはじめとしたさま



TSMC熊本工場(JASM)の概要・稼働スケジュール



(画像出典：熊本県企業誘致連絡協議会)

- 設備投資額86億ドル(約1兆1千億円 *最近のレートで再換算)
- 従業員数1,700人
- 稼働スケジュール
- 2022年4月 建設開始
- 2023年9月 竣工予定~2024年末 生産開始
- 「リージョナルキャリア熊本2022.03.10」より抜粋

半導体生産世界トッ プのTSMCの熊本 工場の話

米中の貿易摩擦に端を発
した、世界の半導体生産拠
点の再配置の一環として、
日本政府は半導体生産世界
トップのTSMCの工場を
日本に誘致し、その拠点と
して熊本工場設置を決定し
た。

ソニーグループ、自動車
部品大手のデンソーとの協
力をベースとする。
総投資額は実に、八十六億
ドル(約1兆1千億円)とい
う巨額なものである。

さまざまな自然災害を思い浮か
べてしまうというようなか
とはないだろうか心配し
てしまうのだ。
他地方でも自然災害はた
くさん発生しているのだから
関係ないと思いつつ、そ
の可能性が負け続けの理由
ではないかと思ってしまう。
いずれにしても、「誘致競
争」では、進出側は、メリ
ットだけでなく、デメリット
も検討するのが当然であ
り、特にデメリット面での
対策として、自然災害対
策を用意し、積極的にアピ
ールする必要があると思
うが、それは出来ているだ

うか。
その対策が出来ているな
らばの話ではあるが、それ
も聞かれてからその対策を
述べるのではなく、むしろ
最初から、逆手にとって、
アピールするのがいいので
はないか。
東北の控え目すぎる性質
が、それをためらわしてい
るとしたら、まことに残念
なことである。

勝てるメリットアピ ールは出来ているか

次に、誘致は競争であり、
競争となれば、他地方の戦
略を研究するのは当然だが、
それは出来ているだろうか。
東京に向いてアピール
するだけでなく、他地方は
何をPRポイントにしてい
るかを知らなければ勝てる
確率が下がるのは当然だ。
先日、ある投資家が、地
方活性化策において、地方
の人に共通する傾向として
中央は強く意識するが、他
地方の動向はほとんど知ら
ないと述べていた。

それはこうした誘致競争
でも、あてはまると思う。
東北はそうした研究は十
分に行われているだろうか。

そのうち、政府は最大四千七百六十億円の補助金を出すことも決めた。投資額も莫大なら、補助金も莫大である。工場はすでに今年の四月に着工しており、再来年十二月の生産開始を見込む。工場従業員千七百人のうち千二百人を地元で採用する。これに伴い、県内でも人材確保や定着率を高めるため給与アップなどの動きが始めているようだ。

波及効果としての関連企業進出や雇用創出

さらに、この工場進出による波及効果もすごい。この工場にはさまざまな素材供給が必要だし、関連技術を提供する企業が工場近くに工場拠点を設置する必要もあるということ、雇用面、工場建設等で熊本は大賑わいのようなのである。東北にとってはまことにうらやましい限りである。この案件で、熊本は一変するであろう。

キオクシアへの補助金は北上素通りで四日市

政府による半導体部門への補助金には続きがある。国内の半導体生産ではトップ集団の元東芝のキオクシアに最大で九百二十九億円を補助することを決めた。キオクシアには岩手県北上市に大きな工場があるが、そこには補助金が下りな

った。そして、キオクシアが三重県四日市市に整備する生産施設に対して、補助金が下りた。ここでも東北は勝てなかった。

東北大学は半導体研究のメッカだった

かつて、東北大学は半導体研究においては世界をリードしていた時期があった。故西澤潤一氏がけん引していた。その後も、半導体研究分野では世界をリードし続けている。

しかし、世界の半導体生産拠点を再配置という一大転換点では、東北は素通りなのだ。まことに残念至極である。

半導体はあらゆる産業に不可欠であり、まだまだ成長する産業である。いったい、東北には何が足りないのだろうか？



故西澤潤一氏

シリーズ【東北再興のための新産業創出】 第8回

**米どころ東北の米活用策としての東北米粉オリジナルレシピ開発を急げ！
もっと発想を変えて！もっと柔軟に！もっと海外に学べ！**

「米粉」活用拡大急務

当新聞の第百二十一号でロシアによるウクライナ侵攻に端を発した食糧問題に関連して、小麦粉に代わる食材として「米粉」を取り上げた。今回の記事はその「米粉」の話題の第二弾である。「米粉」はまだまだ生産量としては小麦にはまったく及ばない。「米粉」生産の新技術も開発されているようだが、何よりも新たな用途の開発は不可欠である。

活発な用途開発が生産技術向上とマッチして、この「米粉」産業は発展していく可能性がある。

第百二十一号で取り上げた用途はパンやケーキ類だったが、それだけの用途範囲で「米粉」の消費量が爆発的に増えるとは考えにくい。

台湾の「米粉」活用レシピに学べ① 「腸粉」

先日、筆者がテレビの食べ歩き番組を見ていたところ、台湾でいま大流行の「米粉」レシピに出会った。ひとつは「腸粉」というおやつだった。(写真参照)いま台湾ではすごい人気のおやつである。このおやつを開発したのは、中国人で、たまたま台湾に住み着いて、「腸粉」を製造している。中国発祥料理でもある。

簡単にいえば、コメを原料にする広東式点心の一種で、特に台湾女性にとって点心は人気の料理である。

「腸粉」とは、筒状に丸められた形がブタの腸に似ていることから名付けられた。中に巻き込む具には、剥きエビ、干しエビ、チャーシュー、牛肉などの肉、魚肉などが多いが、それらの具を巻き込んだり、オイスターソースや醤油だれをかけた、唐辛子味噌などを付けて食べる。

製法は、水につけたインデイカ米を石臼やミキサーにかけて、乳液状にし、浮き粉(小麦でん粉)やコーンスターチ、塩等を加えて食感を調整する。

東北米を活用するには研究が必要だが、期待できる「米粉」活用レシピである。

台湾の「米粉」活用レシピに学べ② 「大根餅」

同番組で見てもう一つが「大根餅」(写真参照)元は広東料理の一種で、米粉・もち粉・大根粉と水を練った生地を四角形にし、蒸した点心である。調理方法は、大根を細かく切って、もち米粉とコーンスターチで作ったペーストと混ぜて、みじん切りにした椎茸、干しエビ、中華ソーセージ、ベーコンを加えて蒸す。蒸し大根餅と揚げ大根餅の二種類がある。



腸粉①



腸粉②



大根餅 ①



大根餅 ②

新シリーズの【三陸酒海鮮会】の既開催ご報告と今後のお知らせ

第45回は9/22に開催済み、第46回は10/19、第47回は11/19、第48回は12/17に開催予定・・・毎回会場も異なり、海鮮も東北地酒も変わります

【基本方針】

- ① 会は原則として、月一回開催といたします
- ② 毎回会場を変えての少人数開催といたします。
- ③ 今後は、当面の間、毎回、「割り勘」を基本とした料金でお願いいたします。

第46回三陸酒海鮮会 東神田【むさし乃】篇
2022・10・19(水) 19:00~22:00



あの十四代が飲めるぞ・・・お店の棚にある！

第45回三陸酒海鮮会 東十条【あいそ】篇
2022・9・22(水) 19:00~22:00



お店の「水鳥記」をすべて飲み干しました。美味し。



宮城・気仙沼の水鳥記超辛
口純米酒

第47回三陸酒海鮮会 日本橋【富和利】篇
2022・11・19(土) 17:00~20:00



宮城の地酒10種飲み放題！・・・地酒イメージ

第48回三陸酒海鮮会 新宿【樽一】篇
2022・12・17(土) 17:00~20:00



鯨刺し盛り合わせ・・・イメージ

「俺がいなくなつてからが はじまりだ」長純一先生 から託されたもの

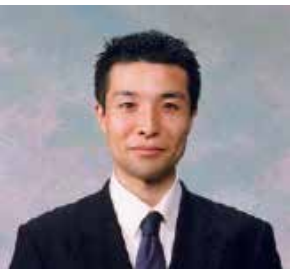
前職を擲つて石巻の復興支援に尽力

一〇月九日、石巻市内で、「長純一さんをしのぶ会」未来へ、いのちをつなごう」が開催された。長純一(ちようじゆんいち)先生は、去る六月二八日、膵臓がんのため、五六歳で亡くなった。長先生は信州大学医学部を卒業した後、わが国を代表する地域医療、農村医療の拠点である佐久総合病院に入職し、僻地医療を志して山間部の診療所の所長として活躍していた。

二〇一一年の東日本大震災の折には長野県医療団の団長として最大の被災地である宮城県石巻市に入り、被災者支援に当たった。その中で、「被災者の継続的な支援を行いたい」と考え、翌二〇一二年に職を擲つて石巻に移住し、最大規模の仮設住宅であった開成・南境仮設住宅群の一面に石巻市立病院開成仮診療所を開設してもらい、その所長となつて被災者のために二四

執筆者紹介

大友浩平 (おともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouchi.ohtomo>

時間三六五日体制で医療提供と健康支援に従事した。二〇一三年には石巻市健康部包括ケアセンター長を兼務し、高齢者だけでなく子育て世代や障害者も含む様々な市民を対象とする「次世代型地域包括ケアシステム」を構築することに

よつて石巻の復興まちづくりを成し遂げることを提唱し、その実現のために尽力した。この「次世代型地域包括ケアシステム」は「石巻モデル」として全国に知れ渡り、視察が相次いだ。現在、国が提唱している「地域共生社会」にもその趣旨は多く取り入れられている。二〇一九年には開成・南境仮設住宅群の撤去で診療所も閉鎖したことに伴い、石巻市立病院包括ケアセンター長と同僚診療所長に就任したが、二〇二一年にはその職を辞して石巻市長選挙に立候補、次いで宮城県知事選挙にも立候補して選挙戦を戦った。

その後、復興住宅の多い地区にあるクリニックの院長を務めていたが、今年六月始めに末期の膵臓がんであることが分かり、ご自身の誕生日である六月二日に動画配信でそのことを公表し、一時間余りにわたつて思いを語った。そのわずか一週間後の二八日に逝去されたのであった。

語られなかった最後のメッセージ

動画配信のお知らせがあったのは六月一九日のこと。先述した通り、前年に石巻市長選挙と宮城県知事選挙に出馬したということもあり、今後の活動に関する内容とばかり思っていた。配信される六月二一日のその時間帯は、毎月第三火曜日に開催している「せんカフエ」と重なつていたので、リアルタイムでは視聴できず、翌日動画を視聴したが、まさかそのような内容だとは思わず、言葉が失った。

東日本大震災で最も大きな被害を受けた宮城県石巻市に震災直後、前職を擲つて単身移り住み、それ以来地域の復興と被災者の心身のダメージに寄り添う在宅医療と次世代型地域包括ケアシステムの実現とに奔走してこられた先生に、よりよつてなぜそのような病魔が、と思わずにはいられなかった。

そして思った。その動画配信は、地域の人や支援者の方など不特定多数の人に向けたものだったが、私が仕事で担当している雑誌の読者のような、地域と向き合つて仕事をしている医療

や介護の専門職の方々に向けても何かメッセージをいだけないだろうか、と。ご体調のこともあるしどうしようか迷いに迷つた挙げ句に恐る恐る先生にご相談したところ、受けてくださった。感謝の言葉しかなかった。

そこで、ちょうど雑誌の読者を対象に、「この人の話が聴きたい」と称してオンラインでいろいろな方をお招きしてお話をお聴きするトークイベントを開催していたので、その場を使って急遽開催することにした。とにかく一人でも多くの人に聴いてもらいたかつたので、今回は関心がある人は誰でも参加可とした。開催日は先生と相談して六月二九日に決まった。そう、このトークイベントは、その前日に先生が急逝されたことにより、残念ながら実現することはなかった。

前向きな愚痴

亡くなった六月二八日のお昼前、先生からオンラインでメッセージをいただいた。「明日の件ですが、病状的に無理となりました」とのことだった。私はこの「病的に無理」を、お氣楽にも「明日は」無理になつたものと解釈して、「承知いたしました。お身体のことを第一になさつてください。ご体調が向上しましたら改めてご相談いたします」などと返信してしまつた。それからすぐ後の午後三時二八分に、先生は亡くなつてしまつた。先生はき

つと、明日とかでなく皆さんの前で話すこと自体がもう無理となりました、とおっしゃりたかつたのだと遅まきながら気づいた。先生の精一杯のメッセージを、何と軽く受け止めてしまつたのかと、後悔しきりであった。

得られたものがあつた市長選と知事選

先生はそうして熟考した結果、政策を決定する側に身を置かないと目指す理想は得られないと判断して、石巻市長選、さらには宮城県知事選と転戦したのだと思う。どちらも結果から見れば「敗戦」であつたが、単にそれだけにどまらずに得られたものが、間違いなくあつた。

石巻市長選の時は、先生が石巻にいられて以来提唱し、取り組んでおられ、石巻の名を全国に轟かせた「次世代型地域包括ケアシステム」の話を、先生以外のどなたも公約に掲げないことに私は強烈な違和感を覚えたが、先生がそれを前面に打ち出して戦つてくださったことで、現市長もそれを受け継がざるを得なくなった。

宮城県知事選の時は、過去最多得票を実現して県政のフリーハンドを得ようとした現職知事に敢然と立ち向かい、前回選挙の対立候補の票をはるかに上回る票を獲得して見事その狙いを阻止し、現知事に「何でもやれるわけじゃないぞと、おだつなよと、そういう厳しいご意見もこの中には含

まれていると思つております」と言わしめた成果を得た。知事選に出ることになつた際に先生から、「医療・福祉・子育てを中心に訴えたい、何かアドバイスいたさないか」と、光栄にもメッセージいただき、政治には素人ながら、大事だと思つたところをあれこれお伝えしたことも、今となっては大切な思い出である。

先生は亡くなる一時間ほど前に、ご自身のFacebookに、事実婚だつたお相手と正式に籍を入れたこと、その妻となつた方とお二人の間に生まれた娘さんのことを、「お支えいただきありがとうございます、よろしくお願い申し上げます」と書き綴つておられた。今にして思えば、これが外に向けての最期の言葉となつたわけである。

先生は私のたつた三年上なだけの五六歳、きつとまだまだやりたいことがたくさんあつただろうし、まだ小さい娘さんを遺していかなければならないかつたわけでもあるし、さぞやご無念だつたことだろうと思う。

亡くなった二日後の六月三〇日、長先生の弔問に伺つた。長先生は本当に安らかな表情で、眠つておられるようだった。妻の明子さんによると、最期、「俺の後にはみんなが受け継いでくれるから、俺がいなくなつてからがはじまりだ」と言つていたそうで、それを聞いて

て改めて、「いいものは決して死なないのだ」と思つた。この人の世で、本当にいいものは個人の死を乗り越えて、時代を超えて受け継がれてきている。長先生の思いも、これからもずっと先生と関わりあつたたくさんの方の人たちによって、全国のあちこちで受け継がれていくのだと思う。

特に東北は、長先生がこの地に生きてくださったきっかけとなつた震災からの立ち上がりを目指す地域である。他の地域よりも特に先生の思いをしっかりと受け継いでいかないといけないだろう。先生がずっと大事にしてこられた地域への思い、そこにいる一人ひとりの人を支えること、みんなが笑顔で暮らせる手助けをするなど、とても先生のようにできないが、そのうちのほんのちよつとでも、自分のできることで先生の志、受け継いでいければと思う。

私が長先生と知り合つたのは、先生が震災の後に石巻に来てくださった後のことと、それ以前のこととはあまり存じ上げなかつた。今回の「しのぶ会」で、先生がかつておられた佐久総合病院から統括院長の渡辺先生や小海分院長の由井先生も登壇されて、長野時代の長先生のお話が聴けてとても有意義だつた。地域医療のメッカとしての佐久総合病院を築き、長先生が師と

仰いだ佐久総合病院の故若月俊一先生が佐久でやってきたことが、時と所を変えて、石巻で長先生がやってきたことだつたのだと確認できた。

「しのぶ会」と並行して「長純一さんの足跡」と題した展示も行われ、様々な資料で長先生の子どもの頃から亡くなるまでの歩みを紹介していた。印象に残つたのは、中学三年生の時の文集にあつた自分には「愈々け癖」があるの自分自分分を誇れる人間になるために「意志を貫く」という課題を自分に課したい、との文章であつた。その時に書いたことを、先生は最期の最期までしっかりと貫き通したように思う。

「しのぶ会」には、県内外から本当にたくさんの方が参加していた。きつと、その人たちがそれぞれが、それぞれ自分の持ち場で、長先生の思いを受け継いで、それぞれにやれることをやつていくんだと思う。

我々は、微力かもしれないが、でも決して無力ではない。繰り返すことになるが、長先生は亡くなつても先生の思いは決して無くなるらない、そういうことだと思つた。なお、六月二一日に配信された長先生のメッセージは今も、「長純一さんより非常に大切なお知らせがあります。」のタイトルでYouTubeで視聴できる。先生の最後のメッセージ、ぜひご覧いただきたい。

東北の昭和 東北の令和の事

今年の七月から九月の始めまで、宮城県多賀城市にある東北歴史博物館で面白い企画展があった。普段はなかなかそこまで出向かない私も最終日近くになってオートバイを駆り初秋の利府街道を走り抜けていったのである。その夏の特別展題して『欲望の昭和』。

昭和という時代、それはかの二十世紀の半分以上を占めた長いものだが、今回は第二次大戦後の総国民どん底時代から、より良い明日・より良い暮らしを求め復興を遂げていった日本人の「消費の歴史」がテーマの事であった。その広告ポスターにはおそろしく高度経済成長期のある若夫婦が互いの背中を合わせながら、



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かって立ち読みを始め東北好きである。

「わたくし、そろそろ洗濯機が欲しいわ。」
「でも僕はテレビが欲しいんだ。」

などと吹き合っている場面が描かれていて、ノスタルジックでほのぼのとした笑いを誘う。ユーモアに溢れたこの企画、東京辺りから全国を周っているものなのかと思つたら、検索したところ他の場所で開催した記録がない為、当博物館のオリジナル企画らしい事がわかった。故に確かに全国レベルという程の規模ではないにしても、充分一日中楽しめる位の内容とボリュームがあり、「よくぞこれだけ集めたな」と感嘆しながら、

じっくりと巡つていったのである。本稿では、東北の歴史を追究し続ける当博物館の企画した「昭和時代展」、その中に垣間見られる東北と東北人の姿を通して、自分もまた生まれ育つてきた昭和という過去を想いながら、令和という現代と未来にも視線を馳せてみたい。

その企画展会場は、通常の博物館とは何か雰囲気が違うように感じた。来場者はかなり高齢の方から十代の学生まで幅広いが、展示への反応が「いやあ、これ懐かしい!」「あったねこんなもの」「これはね、云々何々...」「これ何、意味わからない」と人によ

つては異常に興奮し始めた。世代によつて全く違う反応だつたりするのが面白い。若者にとつては通常の過去の遺物を観覧する博物館視点に近いのだが、おそらく四十年代からの壮年以上の方々にとつてはまさに自分たち自身の置き土産に再会するようでもあり、来館客自身が歴史の生き証人として展示物に向き合い、語り合つていたのである。

それは、歴史というものが来場者一人一人が作つてきた、且つこれからも作つていくものであり、自ら博物館の記録展示の一部になつていく事をも意味するのだという事を実感させる場にもなつていたのである。

まず特別展入り口には、先の終戦を告げる所謂「玉音放送」を実際に当時の人々へ聴かせたラジオ受信機が展示されている。次いで戦後の日本、特に米進駐軍が街を闊歩していた時期の仙台の様子が写真で示され、ここから人々が立ち上がったいく「前夜」である事を強く意識させられる。

そして、戦後「三種の神器」テレビ・冷蔵庫・電気洗濯機が堂々と並び立つのを皮切りに、様々に開発された普及していく電化製品やソノシート、8ミリ映画カメラなどの視聴覚メディアの展示、東京オリンピック・大阪万博などを通して戦後の敗北感や喪失感から脱却し「人並の生活」から「個人の望む生活スタイル」へと

と願望が変化していく様を順路に展開していく。個人的には、大阪万博の未来世界を想定した様々な先進的設備や展示が、今だからこそあらためて実際に体感したいと思つたし(同時に、万博会場建設前後の俯瞰図に、いかに巨大な自然破壊行為が行われたかが観察でき、戦慄もする)、

七〇年代頃からのドリフ始めとするテレビ番組、アニメやアイドル、プラモデルやゲーム、そして植村直巳や小田実らの世界への冒険の記録など当時の若者らへ突き動かした諸々の展示とともに、無骨なデザイン短波ラジオなど今はほとんど忘れられた魅力的な製品に心奪われまさに「昭和的物欲」が甦る心地であった。しかしそのような中でも興味深いのは、こうした発展と向上に湧く全日本的な大きな流れの中、ここ東北地方ではどのような出来事があったのか、その記録もまた併走するように展示されているところだ。

野蒜築港の頓挫や仙台港建設までの映像記録の他、東北・上越新幹線開業までの道のりや車両の名づけコンテスト、ラジオ番組では東北六県ブロックネット放送『我が町バンザイ』そしてその番組の為に作られたテーマ曲「なまつて俺について来い」など今も復活したら面白いんじゃないかと思う企画の資料もある。

万博関連の展示では、昭和四十二年(一九六七年)仙台市で開催の東北大博覧会が印象的だ。東北での博覧会というと、昭和三年にも大規模な「産業博覧会」が仙台の公園や青葉城跡を舞台に開催されているが、この時はかつて米軍キャンプがあった市内東部・苦竹地区にて展開され、これは数年後に大阪万博が開催されるまでは国内で行われた中で最も規模の大きなものだったという。そこには「明日の東北館」という施設があり、「住みよい豊かな東北」として三〇年後の東北を想定した動くパノラマを展示した、という。巨大な東北地方のジオラマを作り、未来世界において各地がどのように発展しているかが一望できるという展示もある。三〇年後どころか、既に当時から五〇年後も過ぎている訳だが、そう考えれば現代は当時からすれば途方もない未来世界なのだ、と不思議な感慨に陥つてしまふのであった。

長きに渡る江戸期の度重なる飢饉に疲弊した果てに戊辰戦争にも敗北した東北は明らかに明治・大正を通じて様々な場面で大なり小なり後進地方として見なされた。当然その傾向は昭和になつても、そして戦後となつても容易には変わり様になかったはずだ。原発施設を受け入れざるを得ない程に追い詰められた東北各

地の窮状、東京で地元の言葉を発すまいとする方言コンプレックス―昭和の上昇気流に同乗しながらも、他地方にはない「闇」を東北は抱え続けていた。

おそろしく東北の昭和とは、全国に後れを取りながらも少しでも早く追いつき、同じように発展していきたいという切実な願望を内包したものであった事だろう。仙台空港や東北・上越新幹線の開業には、中央の文化と富・豊かさを運び共有し、そうして初めて東北人が中央と同じ日本人となる決定打としての期待がかけられていたに違いない。中には作家・藤沢周平のように、新幹線が郷土の繊細な風土と文化を破壊していく危険性をいみじくも指摘していた例もあるが、人々の欲望はもはやそうした喪失への危機感を超越したところにあつたのかも知れない。

その頃、東京に若者が吸い取られ東北から人がいなくなつてしまふ未来、原子力発電所が爆発し一歩間違えば東北が滅亡しているかも知れない未来の可能性は考えられていたのだろうか。

一方で、東北の文字通り「黒歴史」として封印され長く背を向けられていた縄文時代、そして「まつろわぬ民」蝦夷の存在が見直され、価値観がまるつきり転換してしまふ未来が少しでも予測されていたのだろうか。

昭和時代は東北がまだ本来の「東北らしさ」をほとんどそのまま保つていた時代であり、その実態の多くが東北人自身によつても隠され、外界に知られずいた時代であつたと言える。

(七〇年代後半、「気仙沼ちゃん」が全国に与えたインパクトを思い出しなどする)同時に、東北独自の文化が当事者らにとつてはありふれたもの、あつて当然のものであり、守るべきものという意識は未だ低く、無論外へ発信する事の大切さ、面白さが認識されるには遠かつたと言えるだろう。

だがそれ故に、それまで当然あるはずだったものが目前で破壊される、いくつもの知られざる悲劇が東北には起こつていたはずであり、それは昭和から次の平成時代にかけて嵐のようにこの地に荒れ狂い、いつしか失われる事の方が多かり。令和時代となつた現在、東北人たちの話す言葉の大部分は中央の影響下で変貌し、郷土芸能の担い手は減少して各地継承者らの危機感が高まっている。東北各地の都市、なかんずく仙台は東北の地方都市らしさを「ほぼ」失い、他もどの都市へ行つても同じような街並と風景になつてしまった、と嘆く声も少なくない。他にも、各地鉄道路線が廃線の危機に立つていたり、シヤッター街は全国的に当たり前な風景となつていたり、憂い事は山積みとなつて、



東北歴史博物館・夏季特別展『欲望の昭和』

安定的に継続中なのである。

私の仙台での長らくの行きつけである喫茶店・星港夜にも昭和時代の様々な道具や家具が所狭しと並び、地元雑誌にも「昭和特集」と題して取材された事がある。だがノスタルジー以上に、現存する物たちを見つめながら未来に残すべきものとは何なのか、そう思考させる場所の重要性を、店主は静かに訴えかけるかのようである。むしろ現代の東北には、古を慈しむ事は新たな事を始める事、とでもいうような不思議な出来事がある。こちらで始まっている気が私にはしている。

白炭を焼く為に宮城県・七ヶ宿へ移住した佐藤光夫氏は、私が「東北回帰」する前から雑誌でその存在を知り、心の指標のようにしてきた人物だが、その後も漆を樹木より抽出する「漆掻き」の仕事求めて岩手県二戸市へ移住した女性達や熊狩りに魅かれ山形県大鳥集落へ移住した青年など東北回帰した立場でも驚い

てしまうような例が続く。そう言えば分野は違えれども、有名俳優ながら秋田県から東京の仕事に通う柳葉敏郎、新世代でも福島県から東京へ通う女優・箭内夢菜など、昭和時代では考えられなかったような仕事スタイルを選択する人々も、確かに現れ始めている。

それぞれの東北人が、東北への想いを再確認し、ある者は距離を取りまたある者は密着して自分なりの東北人であろうとしている。それは何故か?ここが東北だから。他とは違う、東北という場所だからだ。昭和を、東北人がいかにして他地方並みの同じ日本人であろうと腐心した時代であつたとすれば、平成そして令和は飽くまで東北人とは何かを追求していく時代となるのではないか。

ならば、いつか東北歴史博物館に企画されるであろう「令和展」には東北最高の面白き時代の輝きに、未来の来館客達が眩しく照らされる姿があるに違いない。



射手奉行 今年9射9中した方です



笛吹き少女



秋晴れの中の下郷さんさ



雨降りの祭り

シリーズ 遠野の自然

「遠野の寒露」

遠野 1000 景より

ここまで、例年では体験できないほどに、いや、二度と体験したくもないほどに、あわただしい年だった。
次々にさまさまなことが間髪を入れずに起きて、めまいを起こしそうだった。
そのために、じつくりカレンダーを眺めて、季節の移り変わりを楽しむ余裕もなかったが、しかし気がつくともう三月もない。
来年のことをいうのは早すぎるのは分かりすぎるほど分かってはいるが、来年は落ち着いて、平穏な年であることを願ってやまない。
今、遠野では、一年の収穫を祝っての行事である秋祭りの真っ最中だ。こうした落ち着いた場所がこの東北にあることを誇りたい。



しし踊り奉納



神楽



天然ホップ



山の神

【大谷ロス】・・・これから半年、大谷翔平を見ることができない・・・

MVP論議などどうでもよい・・・大谷は《別次元》の選手だ!だれも経験したことのない世界を歩んでいる そしてファンをそこに連れて行ってくれる・・・



大谷翔平選手

MVP論議などはどうでもよい

つい数日前に始まった「ポストシーズン」を迎えるまでは、アメリカメジャーも、もちろん国内メジャーも、刻々と変化する大谷翔平選手のMVP投票予想の近況をたまたましく騒ぎ立てていた。

いわく、ジャッジが有利だとか、大谷は厳しいだとか、なぜそんなに騒ぎ立てるのかと思っていた。

日本の大谷ファンも、もちろん東北の大谷ファンも、MVPへの投票権はもともとない。部外者なのだ。

規定投球回数についてもうるさく騒ぎ立ててきた。さらには来年の超高額の契

約についても同様だった。筆者は、エンゼルスで、今年と同じようなプレーをしてくれることに決まったらと、出来得る限り視聴してきた筆者、また同類のファンは、この先、約半年間をどう過ごせばいいのか? シーズン中は、大谷選手の試合出場とともにあり、生活リズムもそれによって組み立てられていたのだが、それが突如遮断される。こちらのほうが、よほど「深刻な問題」である。

今シーズンの活躍 それにしても、今年達成した成績は何ということだろう。「投」も「打」も「走」もある。こんな選手がいるのか?

先ほどは、記録を騒ぎすぎと言ったが、ひとつの分野の記録だけではない。あまりにも多すぎる記録が達成されているのだ。今シーズンの大谷選手の活躍に関するデータをざっと並べた表を見て欲しい。大谷選手中心のランキングとはいえ、あらためてそのすごさに驚くばかりである。

大谷選手の最大の魅力は、従来の評価の枠組を飛び越えた場所にあると考える。それは何かといえば、野球というスポーツを入り口として、未知・未踏のエリアを開拓して、これからも開拓し続けて、いまは想像もできない何かを体験させていくのだろうか? 彼はそうしたパイオニアであり、冒険者であり、挑戦者なのだ。

未知への挑戦の継承者 しかも、以前、当新聞でも取り上げたように、大谷選手は、東北、岩手、奥州市、水沢地区の出身で、あのアテルイと同じ郷里なのだ。アテルイも古代のパイオニアであり、冒険者であり、挑戦者だった。そうした意味で、大谷選手は、現代のアテルイかもしれない。

アテルイが、途方もない発想、信念をどこまでも貫き、圧倒的な戦力の朝廷と互角以上に闘ったように、大谷選手も未知・未踏のエリアをさらに突き進んで行って欲しいと願う。

大谷翔平選手の2022シーズン 『打』、『投』、『走』成績ランキング一覧

<https://nobita-retire.com/2022-ohani-ranking/>より (10/6)

【大谷選手 『打』成績】				
	大谷	順位	1位	選手
打率	0.273	25位	0.316	アラエス
本塁打	34	4位	62	ジャッジ
打点	95	7位	131	ジャッジ
打席	666	9位	724	セミエン
安打	160	14位	189	ビシエツト
二塁打	30	25位	44	ラミレス
三塁打	6	4位	9	ロザリオ
得点	90	9位	133	ジャッジ
四球	72	7位	111	ジャッジ
敬遠	14	3位	20	ラミレス
四球率	10.80%	14位	15.90%	ジャッジ
三振	161	5位	196	スアレス
三振率	24.20%	14位	31.20%	スアレス
出塁率	0.356	18位	0.425	ジャッジ
長打率	0.519	5位	0.686	ジャッジ
OPS	0.875	5位	1.111	ジャッジ
ISO	0.246	4位	0.375	ジャッジ
wRC+	142	7位	207	ジャッジ
xBA	0.277	11位	0.328	アルバレス
xSLG	0.553	3位	0.706	ジャッジ
xwOBA	0.385	3位	0.463	ジャッジ
WAR	3.8	27位	11.4	ジャッジ
WPA	2.2	17位	7.7	ジャッジ
平均打球速度	92.9	4位	95.8	ジャッジ
最高打球速度	119.1	2位	119.8	スタントン
ハートヒット率	49.80%	10位	60.90%	ジャッジ
バレル率	16.80%	3位	26.20%	ジャッジ

【大谷選手 『投』成績】

	大谷	順位	1位	選手
先発登板数	28	22位	33	コール
投球回	166	20位	201.1	バルデス
勝利	15	4位	18	バーランダー
敗戦	9	19位	15	ゴンザレス
防御率	2.39	4位	1.75	バーランダー
奪三振	219	3位	257	コール
奪三振率	11.87	1位	11.87	大谷
与四球率	2.39	15位	1.15	クルーパー
K/BB	4.98	7位	7.32	ガウスマン
被打率	0.202	6位	0.184	バーランダー
被本塁打率	0.76	5位	0.49	バルデス
WHIP	1.01	5位	0.83	バーランダー
FIP	2.4	2位	2.38	ガウスマン
xFIP	2.65	2位	2.6	マクラナハン
xERA	2.72	3位	2.66	バーランダー
WAR	5.6	3位	6.1	バーランダー
WPA	3.4	7位	4.6	デュラン
援護率	4.28	19位	6.33	クアントリル
速球平均球速	97.3	2位	97.8	コール
被ハートヒット率	33.20%	4位	31.20%	シーズ
被バレル率	6.30%	5位	4.30%	ベレス

【大谷選手 『走』成績】

	大谷	順位	1位	選手
盗塁	11	31位	35	マテオ
盗塁死	9	3位	12	アロザレーナ
wSB	-2	65位	3.2	ストロー
UBR	0.1	38位	5.1	アントラス
wGDP	2.1	3位	2.5	ラミレス
BaR	0.2	32位	7.3	ストロー
スプリントスピード	28.3	133位	30.7	キャロル
1塁到達時間	4.09	5位	4.02	ミッチェル



写真でお伝えする
東北の風景
【東北の紅葉】

写真撮影 尾崎匠

